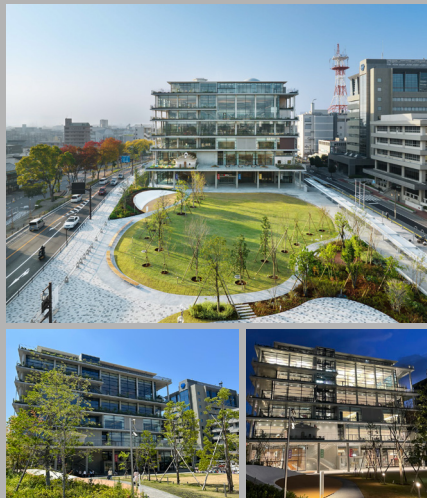


ランドスケープデザイン部門

—まちが美しくなるみどりづくり—

大阪府 知事賞

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル



【事業主】茨木市
【設計者】竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体
【施工者】(株)竹中工務店

Address

A 茨木市駅前3丁目

Outline

建築敷地6,616㎡、公園敷地3,883㎡に、市民センター、劇場、集会場、図書館、子育て支援センター、プラネタリウム、芝生広場と多様な用途を有している。

「日々何かが起こり、誰かと出会う」というコンセプトを掲げ、壁を極力減らした建物内の広場とともに、各層には緑豊かなテラスを積層することで、「自然と建築」が相互に浸透しあう「立体的な公園」のような公共空間を創出しています。

Review

「おにクル」なんとも特徴的なネーミングだ。一度、聞いたら忘れられない。名前だけでなく、そこでの体験もまた人びとの記憶に残り、茨木市での豊かな暮らしを印象づける場所となっている。特に子供たちは、ここで夢を見つけ、将来、このまちに育ったことを誇らしく振り返るに違いない。元茨木川緑地の桜並木に縁とられたビューが期待感を高め、なだらかな傾斜の芝生広場は思わずエントランスへ駆け寄りたくさせる。すべり台の丘や伐採木を活用した遊び場は屋内外の連続性をつくり、テラスのエッジに設けられた植栽は立体的なリズムを演出している。これらを継ぎつなぐ体験することで、みどりのシークエンス景観の魅力を身体的に感じることができる。また、各階のテラスは、まちを見下ろす新しい視点場をつくり出し、市街地の背景に見える北摂山系のパノラマが、みどりに抱かれた暮らしに気づかせてくれる。

このように、視対象としても視点場としても効果的に機能する、生活の拠り所としてのランドスケープに市民が集まり、多くの交流の情景が生まれている。まさに市民にとっての待望の景観が市街地の中心部に生まれたことで、茨木の次のイメージを描き出している。

(大阪公立大学 武田 重昭)

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長賞

アーバンネット御堂筋ビル



【事業主】NTT都市開発(株)
【設計者】KAJIMA DESIGN
【施工者】鹿島建設(株)

Address

C 大阪市中央区淡路町

Review

大阪の中心を南北に貫くメインストリートである御堂筋。なかでも本作品が位置する淀屋橋から本町の区間は、イチヨウ並木が列植された高規格な道路と質の高い沿道建築群がつくり出す空間構成により、優れた街並みが形成されている。本作品は、御堂筋沿道の形態規制の特徴である壁面後退と50m軒線制限により、周辺と連続した壁面とスカイラインが形成されるとともに、御堂筋沿道に点在する近代建築のファサードのデザイン・素材等の要素が少しずつ取り入れられ、低層部では道路に面した店舗配置により賑わいが創出されるなど、御堂筋らしい街並み形成に寄与している。また外構の樹種や舗装は、北側の街区と統一されており、御堂筋沿道の並木が南北方向に繋がるだけでなく、南北2つの街区に挟まれた東西の通りが一体的な並木通りに生まれ変わった。さらに、本作品は地上3階部分に一般に公開された公共的空間を有し、ここから御堂筋を眺めることで、いつもは平面的に眺めるものであった御堂筋のイチヨウ並木を俯瞰で立体的に楽しむことが可能であり、御堂筋のランドスケープに新たな価値を提示している。本作品は、御堂筋の歴史や伝統の継承と新たな発展に資するものとして、高く評価できる。

(大阪公立大学 高木 悠里)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 会長賞

シーパspark



【事業主】泉大津市
【設計者】緑景×E-DESIGN×ジオ・グラフィックデザイン・ラボ設計共同体
【施工者】TSUCHIYA(株)

Address

B 泉大津市小松町

Review

本作品は、公園用地と民間活用用地を一体的に整備するという、新たな都市公園のかたちを提示した公園である。公共性と民間活力、さらには継続的な運営までを視野に入れた計画は、従来の行政主導型公園の枠を超え、今後の都市空間整備に重要な示唆を与えている。計画段階から継続的に市民ワークショップを実施し、整備前から市民が主体的に公園の計画や運営に関わってきた点も、本公園の大きな特徴である。単なる意見聴取にとどまらず、「地域が自らの公園をつくり育てる」という意識が共有され、デザインとマネジメントが一体的に成立している。また、人と自然の成長・変化を許容する「余白を残した設え」や、里山や畦道の風景の想起させる「おおらかなディテール」も、人と自然が流動性をもって共生する新たなランドスケープの姿を示している。さらに、レインガーデン的な排水処理や自然を学ぶエリアの導入など、環境配慮と学びを日常の中に組み込んだ点も特筆すべきである。本作品は、空間のみならず、プロセスや運営までを含めて構想された、市民共創・自然共生型ランドスケープの優れた事例として高く評価したい。

((株)庭樹園 當内 匡)

奨励賞

NTT WEST i-CAMPUS A棟・QUINTBRIDGE

Address **D** 大阪市都島区東野田町
【建築主】NTT・TCリース(株)
【事業主】NTT西日本(株)
【設計者】(株)NTTファシリティーズ
【施工者】(株)竹中工務店

本作品は、多様な都市要素が混在する敷地に対し、内部空間において、きわめて豊かな緑と建築が一体となった高質なデザインを展開している点が際立つ。緑地帯を一段下げて“川”に見立て、歩行動線を“橋”として構成する手法は明快であり、雨水貯留機能を備えた多様な植生が、環境性能と防災性を兼ね備えた空間を生み出している。日照条件を考慮し、水辺における多様な植生環境を創出している点にも一貫性が見られる。水辺の豊かな緑の景観が心地よい滞留環境を形成し、都市の中に新たな価値をもたらしている。一方で、外部境界はセットバックされ、地域性の高い石積みと豊かな植栽帯で処理されているものの、石積みの高さによる圧迫感や、外部から内部へアクセスしづらい点が惜しまれる。

((株)庭樹園 當内 匡)

奨励賞

カサーレ城東ガーデンプレイス

Address **E** 大阪市城東区今福東
【事業主】アートプランニング(株)
【設計者】不二建設(株)一級建築士事務所
【施工者】不二建設(株)

エントランスホールからの眺めるまちを生けどる印象的なみどりと、外周道路に豊かな表情をのぞかせるみどり。家を出て駅へ向かう「行ってらっしゃい」と背中を押してくれるようなビスタと、駅から家へ帰るとき「お帰りのさい」と包み込んでくれるような囲繞感のある玄関まわり。滞留してふと見つけるさり気ないシーンと、まちを行きかいらながら変化を楽しむシークエンス。内からと外から、行きと帰り、シーンとシークエンス、同じ空間でありながら、視点によって見事に変化する多義的なデザインである。ちょっとしたランドフォームや視線との絶妙な高さ関係の因障、坪庭の効果的な一木など、繊細なスタディによって優しい住まいの景が織りなされている。

(大阪公立大学 武田 重昭)

ランドスケープマネジメント部門

—まちが笑顔になるみどりづくり—

大阪府 知事賞

万博記念公園日本庭園景観維持・創出及びマネジメント

【活動者】阪神造園建設業協同組合

Address

A 吹田市千里万博公園 日本庭園

Outline

この活動は、1970年の日本万博の政府出展として作庭された日本庭園の作庭意図を理解し、当時の日本の造園技術の粋を集めて作庭された庭園の景観を維持しつつ、時間の経過の中で変容した箇所の修復と景観創出を図ることで、当庭園の特徴である古代からの現代にいたる日本庭園の変遷とスケールの大きさを、府内、国内、海外からの来園者に鑑賞し楽しんでもらえるようにすること。また、日本庭園特有の植物管理技術の指導講習、日本庭園ガイドツアーや景観ポイントスタンプラリー、更に日本庭園をテーマとしたシンポジウムやフォーラムの開催等により、昨秋に文化財登録された当庭園が培った日本庭園管理技術の継承並びに普及、そして日本庭園への理解を深めてもらうための魅力発信を目的としています。この活動により、日本庭園並びに万博記念公園が地域に更には関西における緑の存在価値と、良好な緑を活用したまちづくり意識を高めることに貢献する。

Review

1970年の大阪万博の会場の一部として26haという広大な日本庭園がつけられた。戦後の関西ではじめて国際的に来訪者を受け入れるために、最高の造園技術を集結した作庭が行われた。せせらぎの園路を歩くと、上代から中世、近世、さらに現代へと各時代の景が移り変わるとともに「人間の進歩と調和」という一連の物語性も表現されている。このような作庭の意図を深く理解するとともに、50年以上の歳月の中で大きく変わってきた自然の状態を的確に捉え、当時以上の庭の質を維持するための手入れが行われている。ここに庭は展示装置から、この地に相応しい風土へと昇華されつつある。

歴史のある庭園であればあるほど、樹木の植え替えや大透かしのよう大胆に手を入れる管理には、十分な知識や経験が不可欠であり、ともすれば敬遠されがちである。ここでは手入れが適切に行われているだけでなく、作業の公開やガイドツアーなどを通して、高度な技術が広報手段としても生かされている。さらに、伝統技術を後世に伝えるために、若い職人や学生への講習会・技術指導が重ねられており、庭園が生きた自然の場所であると同時に、生きたコミュニケーションの場としても機能している。

(大阪公立大学 武田 重昭)

奨励賞

咲くやこの花館 エルフガーデンプロジェクト



【活動者】(一財)大阪スポーツみどり財団 咲くやこの花館

Address

C 大阪市鶴見区緑地公園

Review

1990年に開催された「国際花と緑の博覧会(略称:花博)」のメインパビリオンとして建設された「咲くやこの花館」。今も全国に誇る花と緑の拠点だ。その屋外庭園の一部に、2011年に設けられたプチ・イングリッシュガーデンは、2022年から「エルフガーデン」と称し、夏の除草労力を軽減して、ボランティアによる維持管理を可能にする、実践が重ねられてきた。各地のコミュニティガーデンが直面する除草対策を創造的かつ合理的に解決するための、技術の習得と普及の場として機能している。2025年「大阪・関西万博」開催を機に、その取り組みをより多くの人に知ってもらえるよう、英国式積みによるモニュメント「記憶Recollection」も設置された。素晴らしいレガシーであり、いっそうの普及を願う。

(大阪ガスネットワーク(株) 弘本 由香里)

奨励賞

「おじいさんの木」事業



【活動者】非特定営利法人おおさか緑と樹木の診断協会

Address

D 豊中市庄内東町6等25か所

Review

人間の人生と同じように、それぞれの樹木にも木生と呼べるような生き様がある。人相にそれが現れるように、木相と言えるような佇まいに親しみや哀愁を感じることができる。「おじいさんの木」と名付けられた木たちは、いずれも素敵な木生や趣ある木相を持っている。どんな木であってもその場所を離れることはできない。だから、色々な働きかけをしてもらうことで生きている。雨が水を与え、鳥や虫たちが種や花粉を運び、そして人びとが集まって交流し、コミュニティに見守られながら、何年ものそこにあり続けて、いまの姿がある。この活動はまもなくには生きる木と私たちの暮らしをつなぎ、愛情を注ぐことで木とともに育つ地域を維持してくれている。

(大阪公立大学 武田 重昭)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 会長賞

江坂ひとときプロジェクト



【活動者】江坂ひとときプロジェクト

Address

B 吹田市江坂町

Review

大阪府のベッドタウン、吹田市「江坂」駅にほど近い市街地の倉庫跡地を、都市と里山をつなぐコミュニティガーデンとして再生したプロジェクト。きっかけは、発起人の一人が、能勢・豊能地域でゼロカーボンのまちづくりに関わる中、人口減少や高齢化を背景に、目の当たりにした管理不全の森林や耕作放棄地の増加をはじめ、里山が直面している危機。一方で、市街地では人のつながりが希薄になり、子どもたちの成長にも欠かせない地域や自然との関わりが失われてきていることへの危機感もあつたという。

そこから導き出された両者を結ぶチャレンジが素晴らしい。能勢・豊能の里山村を活用した建物や花壇、シンボルツリーに見守られる芝生広場、敷地を縁取るように設けられたピオトープ。地域の住民、地元の小中学校や保育園など、延べ1000人ももの協働作業でかえられた。

共感の連鎖は、自律的な活動を誘発し、ガーデンの水やりや植え替えを楽しみながら続けるガーデニングサークル「みんなのにわ部」も誕生し、小学校や保育園と連携した自然体験プログラムや、不登校支援団体や大学との協働など、豊かな学びと交流が生まれている。暮らしとともにあるグリーンインフラの好例として、国際花と緑の博覧会記念協会会長賞にふさわしい。

(大阪ガスネットワーク(株) 弘本 由香里)

奨励賞

久宝寺緑地 シャクヤク園



【活動者】(株)美交工業

Address

E 八尾市西久宝寺

Review

久宝寺緑地のシャクヤク園は、1990年の国際花と緑の博覧会に開催されたシャクヤクを迎えるために整備された施設である。なかでも、熊本・肥後発祥でかつて「門外不出」とされた「肥後芍薬」は、大輪の一重咲きで花の形がよく整った希少な品種であるが、久宝寺緑地では長らくその保存・育成が行われている。開花シーズンには、肥後芍薬に限らず様々な品種のシャクヤクを楽しむことができる。近年、発祥の地・熊本でも肥後芍薬を栽培されている農家はごく僅かとなり、このような状況に対して、久宝寺緑地では熊本の肥後芍薬保存農家の方々と連携して肥後芍薬の保存・育成と継承に取り組まれている。このような希少品種を守る取組に敬意を表し、取組の発展に期待したい。

(大阪公立大学 高木 悠里)